

言語地図の地図学的考察

— マールブルク大学所蔵の世界の言語地図を観て —

江 端 義 夫
(1985年9月10日受理)

A Cartographical Study of a Linguistic Atlas
— Observing the Linguistic Atlases collected in the Marburg University —

Yoshio Ebata

To improve the linguistic geography, we have to cultivate the linguistic cartography.
In this report the author found out the following through analysis of the linguistic atlases of the Deutsch and the Niederländisch.

1. The developmental process and originality of the linguistic cartography in each language.
2. Various problems related to linguistic cartography.

はじめに

1982年の9月から11月にかけて、短期間ではあったが、文部省派遣在外研究員として、西ドイツのマールブルク大学に滞在した。滞在の目的は、言語地理学の発祥の地を訪ね、現下、言語地理学の仕事に精励している研究者と対話して、ドイツの言語地理学や方言学一般についての情報交換を行い、且つ、資料収集を行うことであった。

ヘッセン州のマールブルク大学で、筆者は厚遇を受けた。同大学内のドイツ言語地図研究所(Das Forschungsinstitut für deutsche Sprache, Deutscher Sprachatlas)内に、特定の研究用机が当てがわれ、図書を自由に利用できるように研究所の錠が貸与された。R. ヒルデブランド所長をはじめ、J.ゲシュェル教授、W. プチュケ教授その他の研究者には、方言学に関する討論を通して、学術上で豊かな恩恵を受けた。親友のW. ネーザー所員、N. ナイル講師には、研究上の便宜を微細に計っていただき、感謝の言葉もないほどである。

さて、マールブルク大学の図書館は、世界の言語地図の宝庫だと思われる。もちろん、ドイツ言語地図のための方言資料の宝庫であることは言うまでもない。そこで、筆者は図書館の文献カードの記載に基づいて言語地図名を掲げ、実際に筆者が手に取って眺めた文献についてだけ、若干の気づきを記すことにした。

なぜ、このように言語地図についての(言語)地図学的考察を思い立ったかと言えば、その理由は三つある。

一つ、1982年の夏に国会図書館と国立国語研究所を訪ねて、世界の言語地図を調査した時のことである。両機関所蔵の世界の言語地図の質量は、筆者の予想を下まわるものであった。そこで、筆者の簡略な報告でも、記述しておくだけの価値があるであろうと考えたからである。

二つ、D S A所蔵の言語地図の中には、著者から献呈された文献があるかもしれない。が、所蔵された世界の言語地図の大半は、マールブルク大学のD S A研究者が、世界のどのような言語地図を図書館の財産として収書整備してきたかという、一つの勝れた見識を示すものだと言うことができよう。文献名の列挙自身に、意味があると思うのである。

三つ、言語地図の文献カードを、歴史の古いものから新しいものへと並べてみると、そこには、ゲルマン語界の言語地理学の歴史的動向が展開されるであろう、と考えたのである。

これら三点を主な理由とするが、さらに、世界の言語地図資料の整理考察と再認識のために、(言語)地図学的な記述を試みる。

(凡例)

1. 言語地図の訴えかけ性、芸術性、体系性、歴史

- 性、政治性、経済性、合理性等について考える。
2. 文献の頭に通し番号をつけている。著者名の後に、図書館の整理番号も併記する。
 3. 筆者が実際に手に取って観察した文献には、通し番号の下に波線を施して、他と区別する。但し、文献カードの記載文字と実物の文字との照合・検討は行っていない。
 4. できるだけ文献カードの記載を尊重する。
 5. 文献カードの記載内容の理解において、筆者の力の限界を超えることが、しばしばである。完璧を期することができないことを、お詫びする。
 6. 紙幅のつごうで、ドイツ語の言語地図、オランダ語の言語地図についてだけを取りあげる。その他の世界の言語地図については、別の機会に報告することができれば幸いである。
 7. カード上の記載事項の順序は、次の通りである。
 - ①編著者名、②マールブルク図書館での整理番号、③言語地図名、④副題、⑤編著者名、⑥本の総頁数、⑦地図枚数、⑧出版都市名、⑨出版社名、⑩出版年。これらの後に、⑪私註を記すことにしている。(図1～図5の写真は本稿末尾に収載する。)

一 ドイツ語の言語地図 — 《Deutsch》

- ① Wenker, Georg KC 15 o III

Sprach-Atlas der Rheinprovinz nördlich der Mosel sowie des Kreises Siegen nach systematisch aus ca 1500 Orten gesammeltem Material. Zus. gest., entworfen u. gezeichnet von G[eorg] Wenker.

Marburg i[n] H[essen]: [Selbstverl.] 1878. oh. Pag., 25 Bll. gr. 2^o

[Rarissimum!]

- ② Wenker, Georg KC 15 b I

Sprach-Atlas von Nord- und Mitteldeutschland. Auf Grund von systematisch mit Hilfe der Volksschullehrer gesammeltem Material aus circa 30000 Orten. Bearb., entworfen u. gezeichnet von G[eorg] Wenker. Blatt 1, 2, 18, 19, 27, 28, Orts-Verzeichniss.

Strassburg: Trübner [usw.] 1881. 7 Bl. 4^o

[Text dazu siehe unt C 5171]

[2 Exemplare]

歴大な地点数が表示されているのに驚く。地図の大きさは、新聞紙を開いたほどである。絵の具様の道具

で、多彩色の等語線が描かれている。現代の彩色地図の方式は、すでに百年以上も前に行われており、画枠の方式は完成の域に達していたと見てよい。

- ③ Fischer, Hermann KC 5 II

Geographie der schwäbischen Mundart. Von Hermann Fischer. Mit einem Atlas von 28 Kt. [Textbd nebst Atlas.]

Tübingen: Laupp 1895. 4^o; quer-4^o

[Textbd] VIII, 88 S.

[Atlas] 4S., 28 Kt., 1 Netzkt.

- ④ Sprachenatlas der Grenzgebiete KC 15 e II

Sprachenatlas der Grenzgebiete des Deutschen Reiches nach den Ergebnissen der Volkszählung vom 16. VI. 1929. Hrsg. von der Reichszentrale für Heimatdienst. 10 Karten.

Berlin: Zentralverlag 1920.

2 Ex.

多彩色刷りで、しかも、折り込み式の装幀様式の地図。人口や村落の規模が統計図にまとめられ、四角い赤色の符号が、10枚の地図上に浮き上がるように描かれている。言語地図の解釈のために、早くも、言語外の事項が地図化されているのが注目される。

- ⑤ Deutscher Sprachatlas. KC 15 a I

auf Grund des von Georg Wenker begründeten Sprachatlas des Deutschen Reiches. . . in vereinfachter Form bearbeitet. . . unter Leitung von Ferdinand Wrede u. a.

Text zu Lief. 1-21. [2 Bd; 1-6, 7-21]

Marburg: Elwert 1926 ff.

初代G. ヴェンカーの死後、F. グレーデは使命感を抱いて、遺志の貫徹のために尽力しているようだ。

- ⑥ Deutscher Sprachatlas KC 15 III

Deutscher Sprachatlas auf Grund des Sprachatlas des Deutschen Reichs. Von Georg Wenker. Begonnen Von Ferdinand Wrede, fortges. von Walther Mitzka und Bernhard Martin.

Marburg (Lahn): Elwert 1927-1956. 35 S., 128 Kt. gr. -Folio

[3 Exemplare]

以下には、文献カードにはないが、Deutscher Sprachatlas 研究所に所蔵されているG. ヴェンカーのDSAの原図について述べる。それらは、2階の一室に

納められていた。膨大な地点数の言語事象を符号化するため、地図は3分割されていて、ドイツ語を話す全ヨーロッパ域が含まれている。約5万地点の言語事象が、水彩画風の着色法による製図法で描出されている。あたかも、国宝の曼陀羅絵を眼前に見る思いであった。こんなに複雑繊細な図では、とうてい、営利主義出版の波に乗れるはずがない。DSAが百余年後の現代でさえ未完結刊のままであることの事情が、こんなところにあるのかもしれない。しかし、KDSA(簡約ドイツ言語地図 Kleiner Deutscher Sprachatlas)が出版されるのであるのなら、なぜ名人芸の域にあるDSAの残部をも出版してもらえないのか、と不満でもあった。DSAの優美で美しい図は、いつまで眺めていても、飽きることがないのである。特に、「ich」の図は、既刊されたものの原図であったが、見事な分布が出ていた。かつて筆者が学生時代にそれを、広島大学の独文研究室で谷口幸男先生のご好意によって、見せていただいた折には、それは白黒の図であったかと思う。だが、本物は、美しい彩色図である。この原図は、我々を狂おしいほどに、言語地理学の幻想郷へ誘い込む魅力を秘めていた。

さて、ここで掲げておくのは、いわゆる G. Wenker の40文の写真である。**図1** 筆者は、有名な彼の質問文がどのような形式であるかに、深い関心があった。かつて、それが調査協力者(資料提供者)へ郵送された時、その質問文が冊子になっていたのだろうか、それとも調査簿になっていたのだろうか、真剣に考えた。その空想に、心が弾んだものだった。ところが、写真で見られるように、一枚のA4型ほどの、簡便な質問紙であった。意外でもあった。いや、これだからこそ、5万地点からでも報告が得られたのだろう。これらの連想は、未果への華麗な展開を促した。この一枚の紙に収められた Wenker 40文の方言翻訳資料は、IPAでなくて、ひげ文字でもなく、筆記体の独語で書かれていた。ただし、筆者がたまたま見たのは、5万分の一にすぎないので、全体への発言はできない。G. Wenker は、この質問紙を発送して方言調査を開始したころ、それが百余年後の全世界の方言研究者が仰ぎ見る偉業、幻の大業になることを、予想していたであろうか。G. Wenker の写真を見た。彼は、誠実な情熱と強い意志とをたたえた美しい瞳を輝かせ、頑強な身体とあごひげとがよく似合う人だ。広い額がこの人の聡明さや円やかな人柄を彷彿とさせている。彼は学者として、真摯であったにちがいない。また、庶民らしいユーモアの人でもあったであろう。

DSAの図書室に静座していると、筆者の心は、百余年前に溯り行き、G. Wenker と対話しているよう

もあった。また180年ほど前に溯り、当時マールブルク大学の学生だったグリム兄弟と同じ大気を呼吸しているような、幸福な錯覚にとらわれるのだった。

⑦ Pessler, Wilhelm KC 11 a I

Plattdeutscher Wort-Atlas von Nordwest deutschland nach eigenen Porschungen und mit einenen Aufnahmen. Von Wilhelm peßler. Mit 19 Kt., 17 Abb.

Hannover: Verl. d. Vaterländ. Museums 1928. 72 S. 8⁰-quer.

⑧ Keller, Karl KC 15 e II

Die fremdsprachliche Bevölkerung in den Grenzgebieten des Deutschen Reiches. Von Karl Keller. Begleitschrift zum Kartenwerk: Sprachenatlas der deutschen Grenzgebiete. Hrsg. von der Reichszentrale für Heimatdienst. Berlin: Zentralverl. 1929. 80 S. 8⁰

これは小冊子ではあるが、外国語の使用人口を地図化した、珍しい本である。国粹主義の匂いがする。

⑨ Wilenkin, L KC 19 f II

Jiddischer Sprachatlas der Sowjetunion. Auf Grund der von der Sprachkommission des Jiddischen Sektors der Weißrussischen Akademie der Wissenschaften unter Leitung von M. einger unternommenen dialektologgischen Sammlung.-

Minsk: C.V. 1931

1930年代にイディッシュ語の言語地図が出版されていることに、歴史的な事情が窺われる。

⑩ -1- Mitzka, Walther KC 10 I

Walther Mitzka. Deutscher Wortatlas. (5.: Walther Mitzka, Ludwig Erich Schmitt; 18.: Walther Mitzka, Ludwig Erich Schmitt; vod. von Reiner Hildebrandt.) Bd 1-22.

Gießen: Schmitz 1951-1980. 4⁰

1. 1951. 43 Kt., 36 Bll.

2. 1953. Kt. 44-87 39 Bll.

-2- ⑪ Mitzka, Walther KC 10 I

Deutscher Wortatlas. Bd 1- , 1951-

3. 1954. Ungez. Kt. zu 14 Lemmata, 41 Bll.

4. 1955. Ungez. Kt. zu 23 Lemmata, 43 Bil.
5. 1957. Ungez. Kt. zu 15 Lemmata, 41 Bil.
6. 1957. 9 S., 6 Kt.
7. 1958. 43 S., 7 Kt.
8. 1958. 77 S., 10 Kt.
9. 1959. 47 S., 11 Kt.

-3-

⑫ Mitzka, Walther KC 10 I

Deutscher Wortatlas. Bd 1- , 1951-

10. 1960. 52 S., 10 Kt.
11. 1961. 47 S., 11 Kt.
12. 1962. 87 S., 10 Kt.
13. 1963. 91 S., 10 Kt.
14. 1965. 99 S., 10 Kt.
15. 1966. 131 S., 13 Kt.
16. 1968. 80 S., 13 Kt.
17. 1969. 152 S., 13 Kt.

-4-

⑬ Mitzka, Walther KC 10 I

Deutscher Wortatlas. Bd 1- , 1951-

18. 1971. 149 S., 13 Kt.
19. 1972. 141 S., 13 Kt.
20. 1973. 138 S., 13 Kt.
21. Ortsregister u. Ergänzungskarten. 1978. XI, 388 S. 4 Kt.
22. Ortsregister u. Ergänzungskarten. 1980. XII, 494 S., 6 Kt.

([ab II]) Deutsche Sprachatlas. Reihe Wortatlas des Forschungsinstituts für deutsche Sprache.)

[2 Ex ab 15: 3]

著名な大業であるDWAは、W. Mitzkaの構想に発する。途中からI. E. シュミットに受けつがれ、最後はR. ヒルデブランドによって最終巻(22巻)まで刊行された。第1巻は、紙の質が、敗戦時下の事情もあるのか、あまり良くない。装幀も十分ではないが、豊富な資料と解釈線とが認められ、熱気が伝わってくる。D S Aに次ぐ大企画で、しかも完全にやり通した仕事として、これの価値は大きい。[図2]

上の写真で、左側が第1巻であり、右側が最終の第22巻である。編集方法は一貫して同じだが、装幀が、時代社会を反映して、両者はずいぶん異なって見える。

次の写真は、スチール製の言語地図収納庫に納められているDWAの既刊原図である。これには、第1巻から20巻までが入っていた。紙の色が変色しかけて、茶色

から黒みがかっていた。[図3]

さて、これらは、栄光のドイツ単語地図として、輝かしい世界的な地位を占め、後世に範たらしめた地図である。すなわち、通信調査法による言語地図の典型とその限界とを示したものであった。

⑭ Mitzka, Walter KC 10 I Ndr

Walther Mitzka. Deutscher Wortatlas (5.: Walther Mitzka. Ludwig Erich Schmitt.) (Reprogr. Nachdr.) Bd 1/2-5.

(Gießen 1976: Münchowsche Univ. dr.) 4° 1/2. 39 S., 33 S. m. Kt.

3. 32 S., 33 S. m. kt.

4. 32 S., 31 S. m. Kt.

5. 41 S., 38 S. m. Kt.

⑮ Schwarz, Brunst KC 14 e I

Sudetendeutscher Wortatlas. Bd 1-3

München: Lerche 1954-1958.

これは、ズデーテン地方のドイツ語方言の地図である。符号の花畑の中に、代表的な言語事象を地図上に書き込む方式である。それは、G. ヴェンカー以来のやり方であろう。

⑯ Reed, Carroll E. KC 20 p I

Carroll E. Reed and Lester. Seifert. A Linguistic Atlas of Pennsylvanian German.

Marburg/Lahn: 1954

[2 Ex.]

新大陸アメリカ内ペンシルヴァニア州のドイツ語の地図である。A 3ぐらいの大きさの縦長の地図で、上下2段に言語地図が収載されている。青地の基礎図に、黒符号で、事象の対応が明瞭に示されている。符号がきわめて単純であるために、言語地図の秘術としての言語史解説の立体感や醍醐味が、あまり味わえないのが残念である。

⑰ Hucke, Herman KC 13 I

Thüringischer Dialektatlas. Begründet und bearb. von Herman Hucke. Textteil [nebst] Kartenteil.

Berlin: Akademie-Verlag 1961- 8°; 4° (Veröffentlichungen des Instituts für deutsche Sprache und Literatur. 17. 27.

2分冊の小編ながら、言語地図と解説とが一組みに調和しており、地図製作の技術は非常に高い。ochなどの感動詞も項目に入れられて、優美な多色刷りの図

が見える。四方からの折込み式の表紙で地図を保護している。形よりも質を尊んでいるようである。

⑱ -1-

Siebenbuergisch-deutscher
Sprachatlas KC 17 III

Siebenbürgisch-deutscher Sprachatlas. Hrsg. v. Karl Kurt Klein u. Ludwig Erich Schmitt, (Bd 2: Kurt Rein u. Reiner Hildebrandt). Bd 1, 1. 2.2.

Marburg: Elwert 1961-1979. gr. 2^o

1. Laut- und Formenatlas. Auf Grund d. Vorarbeiten v. Richard Huß u. Robert Csallner bearb. v. Kurt Rein.

1. 1961. 21 S., Kt. 1-60.

2. 1964. Kt. 61-150.

⑲ -2-

Siebenbuergisch-deutscher
Sprachatlas KC 17 III

2. Siebenbürgisch-deutscher Wortatlas. Auf Grund d. Vorarb. v. Kurt Rein bearb. v. Hans-Henning Smolka. 1979. 20 S., 50 Kt. (Deutscher Sprachatlas. Regionale Sprachatlanten. Nr. 1, Bd 1, 1.2. u. Nr. 1, Bd 2.)

ルーマニアの一地方に、トランシルヴァニア地域があるそうである。そこで話されているドイツ語方言についての言語地図である。第1巻は1961年刊行だが、第2巻は1979年刊行である。若手の俊秀スモルカが第2巻の地図化を担当していた。

これらの世界各地で使用されているドイツ語地域について、その使用状況を地図化してとらえるのが、先代のL. E. シュミットの構想であった。地図化の諸様式は、DWAのに酷似している。基礎図に薄色の山脈を刷りこみ、地理的事情を表面に出しているのも特色であった。

⑳ -1-

Sprachatlas der deutschen Schweiz KC 16 I

Sprachatlas der deutschen Schweiz. (Begr. von Heinrich Baumgartner u. Rudolf Hotzenkögerle. In Zus. arb. mit Konrad Lobeck [u. a.] hrsg. von Rudolf Hotzenkögerle. . .) Bd 1-

Bern: Francke 1962- quer-4^o

1. Lautgeographie. Vokalqualität. Bearb. von Rudolf Hotzenkögerle und Rudolf

Trüb. 1962. 166 Kt.

㉑ -2-

Sprachatlas der deutschen Schweiz KC 16 I

Sprachatlas der deutschen Schweiz. Bd 1-, 1962-

2. Lautgeographie. Vokalquantität. Konsonantismus. Bearb. von Doris Handschuh, Rudolf Hotzenkögerle, Rudolf Trüb. 1965. 204 Kt.

㉒ -3-

Sprachatlas der deutschen Schweiz KC 16 I

Sprachatlas der deutschen Schweiz KC 16 I

Sprachatlas der deutschen Schweiz. Bd 1- 1962-

4. Wortgeographie 1. Der Mensch. Kleinwörter. Bearb. von Doris Handschuh, Rudolf Hotzenkögerle [u.a.] 1969. 184 Kt., 1 Liste 'Aufnahmeorte' in Tasche.

㉓

Sprachatlas der deutschen Schweiz KC 16 I

Sprachatlas der deutschen Schweiz. Bd 1- 1962-

3. Formengeographie. Bearb. v. Doris Handschuh, Rudolf Hotzenkögerle, Rudolf Trüb sowie . . . 1975. 266 Kt., 1 Liste 'Aufnahmeorte'.

これらは、手書きの地図だが、精巧できわめて明瞭な分布が出ている。背地の輪郭線の基礎図に、黒色の符号を打つ。このドイツ方式とも言える製図学の一形式を、見事に、完成の域まで到達せしめている。被調査者の発音や地点番号の表示も地図上に見られ、秀逸である。

まだ、この地図の製作は、継続中である。1982年10月に、筆者はスイスで、W. ハースが定規を使い、手作業で符号の下図を製作しているのを見て感激した。方言事象を科学的に見つめ、根気よく、手仕事で地図の製作を続けてゆく姿に接して、深い学問的な感動にうたれたのである。話者の諸発音を大事にする態度は、尊いと思われるのである。 [図4]

上の写真は、スイスのドイツ語地図の一例である。

㉔

Hotzenkögerle, Rudolf KC 16 I A.B.

Rudolf Hotzenkögerle. Einführung in den Sprachatlas der Deutschen Schweiz. A.B.

Bern: Francke

A. Zur Methodologie der Kleinraumatlanten. 1962. XV, 144 S. [2 Exemplare]

B. Fragebuch. Transkriptionsschlüssel. Aufnahmeprotokolle. 1962. 174 S. [4 Exempl.]

(Sprachatlas der Deutschen Schweiz. Einführungsband. A.B.)

先のスイスのドイツ語言語地図の創始者であるR. ホツェンケッヒェルレが、言語地理学の方法論を述べた2冊の手引書である。これはあまりにも有名である。

㉞ Luxemburgischer Sprachatlas KC 18 III

Luxemburgischer Sprachatlas. Hrsg. von Ludwig Erich Schmitt. Laut- und Formentalas von Robert Bruch.

Marburg: Elwert 1963. 16 S., 174 Kt. gr. 2° (Deutscher Sprachatlas. Regionale Sprachatlanten. 2.)

㉞ Jofen, Jean KC 19 e I

A linguistie atlas of Eastern European Yiddish. By Jean Jofen. With a foreword by Hans Kurath.

New York: Bernard M. Baruch School. The City College of New York [Selbstverl.] (1964). IX, 154 S. m. 54 Kt. im Text. 8°

東ヨーロッパ、イディッシュ語の言語地図が、アメリカで出版されている。大戦後、イディッシュ語の研究の主流は、ヨーロッパからアメリカに移り、着実に推進されてきている。青色の基礎図に黒色の符号の地図。解説付き。序文は、ニューイングランドの言語地図を手がけたH. キュラスである。

㉞ Wiesinger, Peter KC 15 aa

I

Forschungsinstitut für deutsche Sprache.

Deutscher Sprachatlas. . . . Kartenverzeichnis des Laut- und Formenatlasses der deutschen Mundarten. Zusammengest. von Peter Wiesinger und Ernst-Heinrich Hethy. Als Manuskript gedr. [Masch.; vervielf.]

Marburg/ Lahn: [Selbstverl.] 1965. 10 S. 4° [3 Exemplare]

㉞ Beranek, Franz J KC 19 I

Westjiddischer Sprachatlas. Von Franz J. Beranek.

Marburg: Elwert 1965. 224 S. quer-4°

㉞ Schlesischer Sprachatlas KC 20 III

Schlesischer Sprachatlas. Hrsg. von Ludwig Erich Schmitt. Bd

Marburg: Elwert 1965-67; gr 2° quer-2°

1. Bellmann, Günter, unt. Mitarb. von Wolfgang Putschke und Werner Veith: Laut- und Formenatlas. 1967. X, 30 S. V, 99 Karten.

2. Bellmann, Günter: Wortatlas. 1965. 20 S., 90 Kt. [2 Ex.]

(Deutscher Sprachatlas Regionale Sprachatlanten. 4.)

この地域言語地図も、L. E. シュミットの編集である。シュレーゲン地方のドイツ語方言の地図であり、すでにこの仕事で、W. Veith と W. Putschke とは組みになっている。その後20年間もこのコンビは続き、今日の『簡約ドイツ言語地図』KDS A の使命感に燃えた出版が招来されたのである。

本地図は、基礎図が草色である。符号が数種の色彩で描き分けられ、符号が浮き上がるよう工夫してある。

㉞ -1-

Tirolischer Sprachatlas KC 20 a III

Tirolischer Sprachatlas. Hrsg. von Karl Kurt Klein und Ludwig Erich Schmitt. Bd 1-3.

Marburg: Elwert; Innsbruck: Tyrolia 1965-1971 gr. 2°

1. Vokalismus. Unt. Berücks. d. Vorarb. Bruno Schweizers bearb. von Egon Kühbacher. 1965 VIII, 38 S., Kt A-D, 71 Kt.

㉞ -2-

Tirolischer Sprachatlas KC 20 a III

Tirolischer Sprachatlas. Bd 1-3, 1965-

2. Konsonantismus, Vokalquantität, Formenlehre. Unt. Berücks. d. Vorarb. Bruno Schweizers bearb. von Egon Kühbacher. 1969. VII, 10 S. IV, 98 Kt.

3. Wortatlas. . . . bearb. von Egon Kühbacher. 1971. XVII 31 S., 110 Kt.

(Deutscher Sprach Atlas. Reg. Spr'atl 3.)

オーストリアのチロル地方におけるドイツ語方言の地図である。1960年代は、L. E. シュミットが意欲的に地域言語地図を推進したので、世界のドイツ語方言地域地図が盛んに刊行された。チロル地方言語地図は、

三巻ともに、キューバツヒャーがやりとげた。ドイツの(言語)地図学の科学性と重厚さが、堂々と脈うつ。

② Mehlem, Richard KC 13 c 1

Atlas der Celler Mundart. Im Blickfelde der niedersächsischen Dialekte und deren Grenzgebiete. Von Richard Mehlem.

Marburg: Elwert 1967. XV, 397 S., zahlr. Karten. 4^o

ニーダーザクセン地方の方言地図。397頁もの大冊に、豊富な言語地図が利用してある。解説と地図とを見開きの頁に展覧させるマールブルク方式は、この時期に完成したらしい。これはK D S Aに影響を与えた。

③ -1-

Beyer, Ernest KC 15 m III

Atlas linguistique et ethnographique de l'Alsace. Par Ernest Beyer et Raymond Matzen. Vol. 1-

Paris: Publ. du Centre National de la Recherche Scientifique 1969-[Nebst Beil.] groß-2^o

1. L'homme. Der Mensch. 1969. 349 Kt, Annexe oh. Pag. [Nebst:] Points d'enquête ... 1 Bl. in Tasche 4^o

④ -2-

Beyer, Ernest KC 15 m III

Atlas Linguistique et ethnographique de l'Alsace. Vol. 1-, 1969-
2.

(Atlas linguistique de la France par regions.) [Ruckent.:] A. L. A.

⑤ Beranek, Franz J KC 14 eb I

Atlas der sudetendeutschen Umgangssprache. Von Franz J. Beranek. Bd 1- Marburg [/Lahn]: Elwert 1970-quer-8^o

1. 1970. VII, 222 S. m. 100 Kt. [Rückent.:] Beranek Südendeutsche Umgangssprache. (Handbuch der sudetendeutschen Kulturgeschichte. 5.)

長方形で、222頁、100枚の地図を利用した研究書である。方法は、先の Mehlem Richard (1967年)の仕事と同じである。これは特に、文化史をねらう。

⑥ Guetter, Adolf KC 14 II

Adolf Gütter. Nordbairischer Sprachatlas.

München: Lerche <vorm. Calve> 1971.

12 S., 40 Kt. 4^o

⑦ Gilbert, Glenn Gordon KC 20 t III

Linguistic atlas of Texas German. By Glenn G[ordon] Gilbert.

Marburg [/Lahn]: Elwert [usw.] 1972. VII, 25 S.; VI, 148 Kt. quer-2^o

(Deutscher Sprachatlas. Regionale Sprachatlanten. 5.)

先に Reed Carroll E が、ペンシルヴェニアのドイツ語の地図を作ったが、今度は Gilbert Glenn Gordon が、テキサス州のドイツ語の地図を作った。これらは、マールブルク大学のドイツ言語地図研究所における Regionale Sprachatlanten の一つである。一連の言語地図は、DWA と同様の様式で、大学町マールブルクのエルバート書店から出版される。荘重だが美的センスにやや欠ける本作りをするのが、この Elwert Verlag の特色でもあるようだ。

⑧ Guggenheim-Gruenberg, Florence KC 19 d I

Florence Guggenheim-Grünberg. Jiddisch auf alemannischem Sprachgebiet. 56 Kt. zur Sprach- und Sachgeographie.

Zürich: Juris 1973. 146 S. 4^o

(Beiträge zur Geschichte und Volkskunde der Juden in der Schweiz. 10.)

⑨ Atlas Linguarum KC 2 I
Europae-Introduction Int.

Atlas Linguarum Europae <ALE>. Sous la réd. de/under the editorship of A. Weijnen [u. a.]. Introduction.

Assen, Pays-Bas: Van Gorcum 1975. 247 S. 8^o

[2 Exemplare]

これは、永年の欧州の言語研究者の夢であった「ヨーロッパ言語地図」に関する周密な解説書である。ヨーロッパの言語事情を考慮して、解説書は仏・英・独・露の4か国語に翻訳してあった。オランダの人格者 A. ウェイネンが優秀な J. クルイセンおよび首長の M. アリネイと組んで、ことを進めている。世話の中心はオランダにある。

⑩ -1-

Atlas linguarum KC 2 I

Europae-questionnaire quest.

Atlas linguarum Europae <ALE>. Sous la
réd. de A. Weijnen [u. a.]. Questionnaire
1-

Assen [usw.]: Van Gorcum 1976- 8°

1. Onomasiologie, vocabulaire fondamental.
Prép. par Joep Kruijzen. 1976. 128 S. m.
Abb.

④ -2-

Atlas linguarum KC 2 I

Europae-questionnaire quest.

Atlas linguarum Europae <ALE>. Question-
naire 1-

2. Texte établi par A. Weijnen en Joep Kruij-
zen. 1979. 216 S.

ALEの第1質問簿は、516項目の質問文で構成さ
れており、全ヨーロッパに渡って、約2,500地点で調
査が行われた。

この企画は1929年にW. ベッスラーが提唱して以後、
ローマン・ヤコブソンが1936年にコペンハーゲンでの
国際言語学会議でその意義を提示した。そして全
ヨーロッパの国々へ計画案を送る手はずになっていた
が、第二次世界大戦のためにそれが不可能になった。
1956年にオランダのヘーロマがその企画を再興し、
代表となって推進した。その間、ALEのためには、
1926年にW. シュミットが14枚の世界言語地図を試作
し、W. フェイスが1969年に世界言語地図への主張を
行った。また1931年には、マルセル・コエンの実際の
言語調査票が出版されたりした。

他方、L. E. シュミットは1958年以来、ヨーロッパ
全域内のドイツ語辞書を企画し推進した。また、D
S Aでの伝統的な地域言語地図の出版を、精力的に押
し進めた。こうして、マールブルクは、欧州の方言学
の名実ともに中心地となった。

その後1966年に、オランダのA. ウェイネンは、比
較言語間言語地図をつくって、複数言語地図の必要性
を説いた。

時が更り、1965年にマールブルク大学で、L. E. シュ
ミットの話で、第2回一般方言学国際会議が行われ
た。この折に、ユトレヒト大学のマリオ・アリネイが
印欧語音韻の近代的発展相を検証すべく、全ヨーロッ
パ言語地図の作製を提案した。これが承認され、国際
方言学者委員会が設立され、M. アリネイが首長に選
出された。その後、L. E. シュミット、A. ウェイネ
ン、M. アリネイは相談して、国際スラヴ言語学者委

員会の理解を求め、ALEは政治体制の枠を越えた平
和企画としての実をも期待できるものとなった。ヨー
ロッパの精神と歴史とを背負った宿命的なALEが、
長い迂余曲折を経た後に、学者の良心によって、実現
されることとなった。

1984年に、ALEの第1巻母音編が、解説付きで出
版された。コンピュータ言語地図の水準の高さは、W.
プチュケをはじめとするマールブルク大学の研究者の
情熱と歴史的蓄積とで証明済みである。[図5]
(上の写真は、ALEを30分で1図描きあげるXYプロ
ッターである。)

ALEの第1巻の地図は、機械の図とは思えないほ
どに精巧で美しい。しかし、表紙はきわめて貧相であ
る。これは、実質を重んじて虚飾を排した合理精神に
よるものだと思う。

ところで太平洋地域や東南アジア地域には、管見に
よる限り、ALEのような統一した質問調査法に基づ
く言語地図は見られない。(ただし、諸言語の調査結
果を持ちよって一冊に編集したものはあるようだ。)い
つの日か、統一質問文によって、「アジア言語地図」
が実現することを希望し、祈りたい。

② Eichhoff, Juergen

KC 9 I

Jürgen Eichhoff. Wortatlas der deutschen
Umgangssprachen. Bd 1.2.

Bern, München: Francke (1977-1978.) 8°

1. 50 S., 54 Kt., 1 Beil. [i. Lasche]

2. 50 S., Kt. 55-125

全125枚の言語地図には、殆ど解釈が見えない。
調査地点は、東西ドイツに渡って、数百地点にも及ぶ
DSAやDWAに親しんだ目で見ると、これが荒く感
じられるから不思議である。

③ -1-

Philipp, Marthe

KC 15 n III

Atlas linguistique et ethnographique de la
Lorraine germanophone. Par Marthe Phi-
lipp, Arlette Bothorel, Guy Leveigue. Vol. 1-
Paris: Éd. du CNRS 1977- .groß-2°

1. Corps humain, maldies, animaux domesti-
ques. 1977. 20 S. m. 5 Kt., 342 Kt., 26 S.

本文はフランス語で書かれている。ドイツに国境を
接するフランスのロレーヌ地方でのドイツ語が、調査
されている。いわゆるフランス方式の言語地図で、朱
色の基礎図に、黒色で方言事象が書き込まれている。
フランス語公用地域における若年層のフランス語と老
年層のドイツ語との対応問題や特異な言語生活上の諸

問題が、注目される。

44 Koenig, Werner KC 11 I

Werner König. dtv-Atlas zur deutschen Sprache. Tafeln u. Texte. Mit 138 farb. Abb. seiten. Graphiker: Hans-Joachim Paul (Orig. -Ausg.) (Mit Mundartkarten.) (München:) Deutscher Taschenbuch Verl. (1978). 247 S. 8° (dtv-Taschenbücher. 3025.)

45 Braun, Hermann KC 14 b² I

Hermann Braun. Wortatlas des Sechsamter-, Stfit- und Egerlandes. Mit 1 Grundkt. u. 60 Wortkt. (2. Aufl.) (Marktredwitz: Volkshochschule 1978.) 76 S. 4° (Schriftenreihe der Volkshochschule Marktredwitz. H. 17.)

46 Kleiber, Wolfgang KC 6 I Bd. 1. 2.

Historischer südwestdeutscher Sprachatlas. Aufgrnd v. Urbaren d. 13. bis 15. Jhdts. Von Wolfgang Kleiber, Konrad Kunze, Heinrich Löffler. . . Bd 1. 2.

Bern, München: Francke (1979). 8°, 4°

1. Text. Einleitung, Kommentare u. Dokumentationen. XIII, 328 S.
2. Karten. Einf., Haupttonvokalismus, Nebentonvokalismus, Konsonantismus. 309 S. m. 237 Kt.

日本には、一定の過去の時代を切りとって研究した言語地図があるだろうか。H. レフラーは歴史言語学や言語教育、一般言語学などに造詣が深く清麗な学者である。この言語地図の地点数は多いとは言えないが、言語地図を分析する明晰な一典型が示されている。

47 Sprachatlas des noerdlichen Rheinlands KC 15 d/Reg.

Sprachatlas des Nördlichen Rheinlands und des südöstlichen Niederlands, "Fränkischer Sprachatlas" <FSA>. Hrsg. v. Jan Goossens. Ortsregister, Grundkarte. Marburg: Elwert 1981. 109 S., 1 Kt. [in Lasche] 8°

北部ライン地方と南東オランダ地方の言語地図は、調査地点数が、驚嘆するばかりに周密である。J. ホーセンスは若い頃に、マールブルク大学で、L. E. シュ

ミットに学んだ人である。このフランケン地方言語地図は、1981年に109頁の解説書と1枚の基礎図とが出版された。ちなみに、J. ホーセンスは、1969年に『構造言語地理学』という単著を世に送っている。

以下の2著は、文献カードに出版年が未記載であったので、ひとまず、ここに置くことにする。

48 Winkler, Wilhelm KC 1

Sprachenkarte von Mitteleuropa. (-Deutsche selbstbestimmungsrecht 1-) Wien O. J.

49 Interims-Zettel Seifert, Lester W KC 20 o II

Wordatlas of Pennsylvania German.

Marburg: [Soll bei Elwert gedruckt werden] 3 Pausen (handgezeichnet)

144 unfertige Karten (handgezeichnet, nur Symbole enthaltend. Die geograph. Kt. muß noch übergedruckt werden.)

50 Werner H. Veith, Wolfgang Putschke

Kleiner Deutscher Sprachatlas

Band 1, Konsonantismus,

Teil 1 plosive, mit 115 Kt. Tübingen 1984

『簡約ドイツ言語地図』KDSAは、W. ファイスとW. プチュケが所員のL. ファンメルといっしょに、コンピュータを利用して、DSAの5万地点の中から6千地点を選んで音韻地図にとりまとめたものである。1984年に出版された第一巻には、G. ヴェンカーの40文中から子音図115枚を作製し、収載してある。二人の共同作品は、今回も、草色の下図に黒色の符号を配する手法である。符号法は、きわめて合理的である。最新の、ドイツ言語地理学の到達点が示されていると言えよう。これは、コンピュータ言語地理学の、新しい時代を切り開く代表的な仕事の一つである。

二 オランダ語の言語地図 — <<Niederländisch>>

ドイツに隣接するオランダの言語地図について考える。オランダ語の言語地理学的研究は、ドイツと親しく連れあって進展してきていると思われる。以下には、ドイツでの場合と同様に、言語地図本位に、斯界の発展の跡を、古い時代から新しい時代へとたどってみる。

51 Blancquaert, Edgard KC 22 b II

Dialect-Atlas van Zuid-Oost-Vlaanderen. Door

- E[dgard] Blancquaert en H. Vangassen. Met 150 Kaarten. [1.2.]
Antwerpen: De Sikkel [um 1930]. 2^o
[1.] XXV S., 520 Bll. [Bll. Masch.; verv.]
2. Kt. 1-150.
(Reeks Nederlandsche Dialect-Atlassen. 2.)
- ③② Blancquaert, Edgard KC 22 c II
-
- Dialect-Atlas van Noord-Oost-Vlaanderen en Zeeuwsch-Vlaanderen. Door E[dgard] Blancquaert. Met 150 Kaarten. [1.2.]
Antwerpen: De Sikkel [1935]. 2^o
[1.] XXVI, 284 S.
[2.] Kt. 1-150.
(Reeks Nederlandsche Dialect-Atlassen. 3.)
- ③① Roukens, W KC 27 I
-
- Wort- und Sachgeographie Südostniederlands und der umliegenden Gebiete mit besonderer Berücksichtigung des Volkskundlichen. Teil IA Text.
Nijmegen: 'De Geldelander' 1937. XI, 487 S.
Roukens, W KC 27 II
- ③② Wort- und Sachgeographie Südostniederlands und Umliegende Gebiete mit besonderer Berücksichtigung des Volkskundlichen. Teil IB Atlas.
Nijmegen: De Geldelander O.J. 1937
Wort und Sachen は、かつて大問題であった。
- ③① Vangassen, II KC 22 d II
-
- Dialect-Atlas van Vlaamsch-Brabant. Door II. Vangassen. Met 150 Kaarten. [1.2.]
Antwerpen: De Sikkel [um 1938]. 2^o
[1.] XXVIII, 380 S.
[2.] Kt. 1-150 [Lichtpausen]
(Reeks Nederlandsche Dialect-Atlassen. 4.)
- ③① Blancquaert, Edgard KC 22 e II
-
- Dialect-Atlas van de Zeeuwsche eilanden. Door E[dgard] Blancquaert en P. J. Meerens. Met 150 Kaarten. 1.2.
Antwerpen: De Sikkel [um 1939]. 2^o
1. Teksten. XLII, 106 S.
2. Kaarten. 1-150 [Lichtpausen]
(Reeks Nederlandsche Dialect-Atlassen. 5.)
- ③⑦ Taalatlas van Noord- en Zuid-Nederland KC 28 III
-
- Taalatlas van Noord- en Zuid-Nederland. Uitgegeven door G. G. Kloeke. Deel I Aflevering 1-; 2. Reeks, Afl. 6.7.8.
Leiden: Brill 1939-
- G. G. クルーケによる南北オランダ言語地図は、まことに素晴らしい。すでに早い時期に、オランダでも、国の全域で多数地点からの資料を得て、多彩色刷りの言語地図が出版されていた。装幀は、表裏の覆いを糸ひもで結び、帙入りの地図を守り包むというやり方である。その素朴で懇切な手法が国民性を表しているようで、好ましい。
- ③⑧ Pée, Willem KC 22 f II
-
- Dialect-Atlas van West-Vlaanderen en Fransch-Vlaanderen. Door Willem Pée met de medew. Van E[dgard] Blancquaert. . . .
Antwerpen: De Sikkel 1946. 2^o
[1.] LXXXVI, 474 S.
[2.] [Kt. bd nicht ersch.!]
(Reeks Nederlandsche Dialect-Atlassen. 6.)
- ③⑨ Blancquaert, Edgard KC 22 a II
-
- Dialect-Atlas van Klein-Brabant. Door E [dgard] Blancquaert. Met 150 Kaarten. 2. uitg. Met aanvullingen door Fr Vanacker. 1.2. [In 1 Schuber]
Antwerpen: De Sikkel 1950-1952. 2^o
1. Teksten. 1950. XXIX, 118 S.
2. Kaarten. 1952. 1-150.
(Reeks Nederlandse Dialect-Atlassen. 1.)
- ③⑩ Teeuw, A KC 28 k I
-
- Dialect-Atlas van Lombok (Indonesia).
Djakarta: Biro Reproduksi Djawatan Topografi 1951
オランダがインドネシアを植民地化していた頃のなごりを示す不思議な言語地図である。
- ③⑪ Weijnen, A KC 22 i II
-
- Dialect-Atlas van Noord-Brabant. Door A. Weijnen. Met 150 Kaarten. 1.2.
Antwerpen: De Sikkel 1952. 2^o
1. Tekstan. XLVII, 207 S.
2. Kaarten. 1-150.

(Reeks Nederlandse Dialect-Atlassen. 9.)

③ Dialect-Atlas van Friesland KC 22 p II

Dialect-Atlas van Friesland. <Nederlandse friese dialecten.> Door K. Boelens . . . G. van der Woude [u.a.] met 175 Kaarten. 1.2.

Antwerpen: De Sikkel 1955. 2°

1. Teksten. LIII, 440 S. [z.T. faks.]

2. Kaarten. 1-175.

(Reeks Nederlandse Dialect-Atlassen. 15.)

④ Heeroma, Klaas KC 25 II

Taalatlas van Oost-Nederland en aangrenzende gebieden. Door K[laas] Heeroma. Bd 1-3

Toelichting bij Kt. 1-3 [Nebst] Alphabetisch en systematisch plaatsnamenregister.

Assen: van Gorcum 1957- 8° 4°

⑤ Pée, Willem KC 22 g II

Dialektatlas van Antwerpen. Door Willem Pée. Met 150 Kaarten. 1.2.

Antwerpen: De Sikkel 1958. 2°

1. Teksten. LI, 596 S. [z.T. faksimil.]

2. Kaarten. 1-150.

(Reeks Nederlandse Dialektatlassen. 7.)

⑥ Louw, S A KC 29 II

Afrikaans Taalatlas. Saamgestel en uitgege deur S A Louw. Afl. 1-Nr. 1-

Pretoria: Universiteit van Pretoria 1959.

10 Blatt, 20 Ktn quer-2°

⑦ Louw, S A KC 29 II

Afrikaanse Taalatlas. Lfg 5-10, 30Ktn, 1959

⑧ Dialektatlas van Belgisch- KC 22 h II

Limburg

Dialektatlas van Belgisch-Limburg en Zuid Nederlands-Limburg. Door E[dgard] Blancquaert, J. C. Claessens [u.a.] Met 150 Kaarten. 1.2.

Antwerpen: De Sikkel 1962. 2°

⑨ Atlas van Nederland KC 26 III

Atlas van Nederland.

s-Gravenhage: Staatsuitgeverij 1964- gr. 2°

紙幅のつごうにより、オランダ語の言語地図の文献カードの残り7枚については、割愛せざるをえない。

おわりに

ドイツ語についての言語地図のカードは、50枚である。オランダ語の25枚、英語の15枚、北方語の5枚、ロマンス語の106枚、スラブ語の57枚、その他(日本語や米語やアフリカ語)の36枚であった。この数字は、すなわち、ロマンス語圏の言語地理学的研究が、ゲルマン語圏、スラブ語圏その他よりも盛んであることを物語る。

本稿では、マールブルク大学図書館所蔵の言語地図の中から、DeutschとNiederländischとの言語地図に関して記述した。

この作業を通して抱いた若干の感想を記せば、次の通りである。

- (1) G. Wenker が今から107年も前に創造した言語地理学の基礎は、ドイツ精神によって堅実に育てられ豊かな蓄積を産んだ。それらの宝物に触れて、筆者は感慨無量である。
- (2) マールブルクでは、G. Wenker やF. Wrede, L. E. Schmitt, W. Mitzka, R. Hildebrandt などの有能な指導的研究者が、ドイツ言語地理学を形成させた。独自の製図学的方法が築かれ、ロマンス語圏のとは全く異なっている。
- (3) ドイツやオランダの言語地図は、おおむね、広域を対象にしていることがわかる。筆者もかねてから、広域の地理的言語を研究したいと考えてきた。
- (4) ドイツ語やオランダ語の言語地図には、管見による限りでは、社会言語学的理念での研究が少ない。但し、二言語併用等の研究はある。しかし、年齢差に注目した地図さえ無い。社会言語学的視角を導入した、新しい言語地理学的研究の可能性が、今後に残されている。
- (5) 調査地点は多いほどよい。可能ならば、多彩色の言語地図が望ましいことは言うまでもない。
- (6) 調査項目の多寡が問題になることが少ないのが問題である。項目は、人間生活の「宇宙の体系」を考えて決めたい。世界民族語の比較研究を考慮して、統一項目等も選定していくべきである。
- (7) コンピュータを利用した言語地図製作は、今後の世界の言語地理学の常識となるであろう。コンピュータを利用しなければならぬ程に多くの地点で、多くの言語資料を得るべきだ、という責めでもある。
- (8) 方言研究の醍醐味と生命線とは、地理的側面にある。人間存在に地理的差異があるかぎり、言語空間は一点に凝集せしめられない。ゆえに、言語地図を描

いて人間言語の生態を研究する学問は、人類共存に無限の発言力を持つと思われる。(1985.9.9)

付 記

マールブルク大学へ出張するにあたり、W.A.グロータース神父や飯豊毅一氏や、藤原与一先生などから、研究事情について親切なご教示を賜った。また、谷口幸男先生、小野光代氏、藤本黎時氏には、ドイツ出張の手続きや生活などについて、いろいろのお導きをいただいた。厚くお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1) W.A.グロータース「日本の方言地理学のために」(平凡社, 1976)。
- 2) 小島公一郎「西ドイツにおける地理的言語研究の近況」(「方言研究叢書」第2, 1973)。
- 3) 塩谷饒「ドイツ語学最近の動向」(「独逸文学研究」第10, 1962)。
- 4) 橋本郁雄「Deutscher Wortatlas について」(「言語文化」第4, 1967, 一橋大学語学研究室)

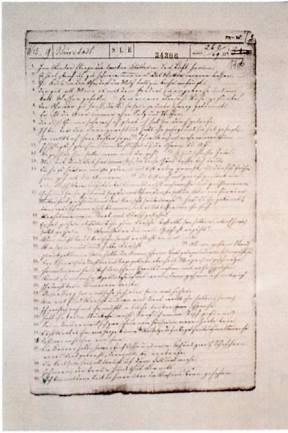


図 1

G. Wenker の40文の質問票

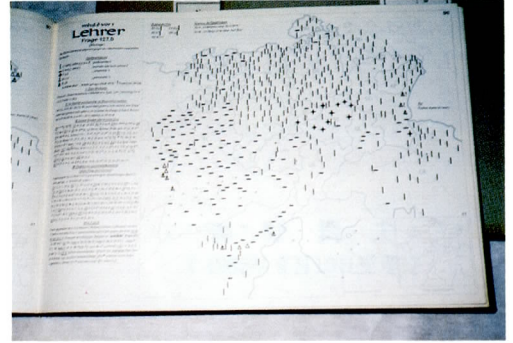


図 4

世界的に名声の高い手書きの『ドイツ語圏スイスの言語地図』

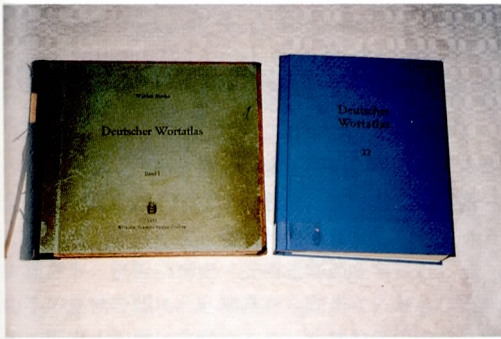


図 2

W. Mitzka によるDWAの第1巻(左)と最終巻(第22巻)

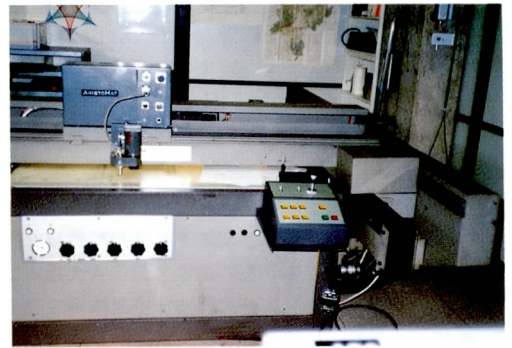


図 5

マールブルク大学の計算器センターで、『ヨーロッパ言語図巻』を製作中のXYプロッター



図 3

D SA 研究所に収納されているDWAの既刊原図